

若者の「これからの『都市空間像』」に関する調査分析
 —想起メディアと都市イメージ—
 Survey of "'City Image' in the Future" by University Students
 - Recollection Media and City Image -

○宇於崎勝也¹
 Katsuya Uozaki¹

Abstract: How is it thought about the city image in the future? I questioned the students on department of architecture. The city image in the future was investigated, and analyzed from free answer of 257 people that studied the city planning.

1. 研究目的

現在、情報化や携帯用端末の高機能化などわれわれを取り巻く社会の変化が著しい。SF作家や映像作家が描いてきた「近未来」が現実となりつつあり、機器や素材の開発により、近い将来人型ロボットが家事や作業のサポートをするようになりそうである。

このような社会状況のなか、建築を学ぶ学生たちはこれからどのような都市空間になると考えているのか、都市計画の基礎的なことを学修したうえで、どのように考えているかを簡潔に回答してもらい、その整理、分析から学生が考える都市空間像を明らかにする。

2. 研究方法

対象は平成 26 年度前期に建築学科設置科目の「都市計画 I」を受講している学生 298 名とした。回答方法は授業の 15 回目に行った演習の一環として次の質問を投げかけ、10 分間で回答用紙に自由記述させた^{注1)}。

あなたが考える、これからの「都市空間像」について記述してください。

これからの都市は小説、マンガ、アニメ、映画「○○」のように、△△になっていくと思う。下線部のメディアと△△（空間像）はどのような状態かを記述する。

298 名^{注2)}のうち、白紙回答が 8 名、メディアを特定せず、自分なりの未来像を描いた者が 33 名おり、分析対象としては 257 名 (86.2%) となった。なお、メデ

ィアは小説が映画化されたり、ビデオゲームがアニメ化されたりと、複数のメディアに重複しているものが多数存在するため、メディアの種類（小説、マンガ、アニメ、映画などの分類）には重きをおいて分析していない。

3. 想起メディアの分析

本稿では小説、マンガ、アニメ、映画などの被験者が「これから（将来）」のイメージを具体化して伝える媒体を「想起メディア」とした。257 名が複数回答^{注3)}で記述した想起メディアは回答者数の上位から Figure 1. のように示すことができる。

「ドラえもん」の回答が 15.2% となった。もともとは小学館の学年別学習雑誌の連載であったが、テレビアニメとしても 30 年以上放送が続いており、年代的には子供のころに視聴していたものと推察される。

想起メディア	回答者数
ドラえもん	39
アイ、ロボット	31
スターウォーズ	11
PSYCHO-PASS サイコパス	10
ターミネーター	8
バック・トゥ・ザ・フューチャー	7
鉄腕アトム	7
機動戦士ガンダム	6
ドラゴンボール	5

Figure 1. Number of Answers of Recollection Media

1 : 日大理工・教員・建築

「アイ, ロボット」は人間とロボットが共存する 2035 年のシカゴを描いた映画であり, 原典はアイザック・アシモフの『われはロボット』であるが, 監督のアレックス・プロヤスがオリジナルのアイデアを加えて独自の作品に仕上げられており, 12.1%と回答が高かった. 直近のテレビ放映は約 1 年前⁴⁾になされているが, 2004 年に本作が製作, 公開されたころ被験者は小学校高学年から中学生ぐらいであり, 劇場鑑賞したとすれば, 感受性の強い頃であったと推察される.

4. 都市空間の分析

被験者が自由記述した都市空間像をキーワードで抽出すると, 257 名の複数回答の結果を Figure 2. のように示すことができる.

キーワード	回答者数
ロボット	70
空を飛ぶ車	32
超高層建築の林立	24
機械化の進展	20
宇宙への進出	17
地下都市の発展	10
アンドロイド	7

Figure 2. Number of Answers of City Image

「ロボット」が多数を占め (27.2%), 「空を飛ぶ車」が続いた (12.5%). 想起メディアである「ドラえもん」「アイ, ロボット」ともこのキーワードがあてはまる. 被験者の多くは「ドラえもん」に関してはネコ型ロボットとして誕生した 22 世紀の世界をイメージしたようである. 「ひみつ道具」に関しても便利な道具が開発されるというイメージもあげられたが, 圧倒的に高層ビルが建ち並び, 車が空を飛ぶ 22 世紀がイメージの中心となっている.

ロボット, アンドロイドに関しては人間の仕事を代替して人が楽になるとした共存・共栄社会が見られる一方, 知能を身に付けた機械やロボットによって人間が支配されるとしたディストピア的な社会をイメージしたものも多い⁵⁾. これは「アイ, ロボット」のような作品からの影響と考えられる.

「宇宙への進出」は「スターウォーズ」や「機動戦士ガンダム」からの発想で, 異星人との交流や戦争, 地球の環境破壊によって惑星開発に進出せざるを得ないといった理由があげられた. また, 地上の環境破壊により, 地下都市へ逃れるといったイメージも見られた.

5. まとめ

総じて, 安心・平和, 自然との共生などの温かみのある都市空間のイメージよりは, 科学や技術, 機械化が進展し, 都市空間の高度利用や空中の移動 (車が飛んだり) といった機械文明の進展による鉄やコンクリートで固められた冷たい都市空間のイメージのほうが多く, どちらかといえば利便性は高まったものの, 機械やロボットに支配されているような, 人間にとって望ましくない都市空間をイメージしている学生が多いことが明らかとなった.

都市計画の理解度確認の中での回答であるから, 現在の日本がおかれている状況や過去の都市計画の技術や手法については理解していると考えているが, それよりも近年のロボット工学の発展や情報機器の蔓延などに影響を受け, その延長線上のロボットや機械化された都市をイメージしやすかったのかもしれない.

なお, 小説を想起メディアとしたものは全部で 12 名であり, 全体的には映画が多く, 中にはビデオゲームを対象とした被験者もいた. なお, 1 名しか上げていない想起メディアもあり, 個別性が高いことも明らかとなり, 同年代でも共通認識としてのこれからの都市空間像があるわけでないこともわかった.

個別にじっくりと聞き取りを行えば異なったイメージがわいてくるのかもしれないが, また回答時間をもう少し長くすれば, もっと多くのキーワードを抽出できたかもしれないが, 調査方法の限界から本稿ではごく簡単な想起メディアと都市空間イメージの抽出にとどまった.

注釈

- 1) 前の週に演習の一部として自由記述させることを予告したうえで実施した. 実施は 2014 年 7 月 24 日 (木) および 25 日 (金) に行った.
- 2) 3 年生 260 名, 4 年生 38 名
- 3) 出現した想起メディア総数は延 274 点であった.
- 4) 2013 年 6 月 28 日に日本テレビで放映された.
- 5) これからの都市空間を退廃的イメージで記述した者は 124 名 (48.2%) あった.

参考文献

- [1] Wikipedia 「ドラえもん」
- [2] Wikipedia 「アイ, ロボット」
- [3] 小嶋勝衛監修 (2008) 「都市の計画と設計 第 2 版」 共立出版